



諸問題を解決するための 指導保育士の導入は

大野 則男 議員

現在の児童福祉課で対応する 健康福祉部長

保育事業の答申について、4回で4時間ほどの議論での結論では、あまりにも乱暴ではないか。

健康福祉部長 今回の方針作成に当たり、検討委員会での答申が固まったのち、1カ月間のパブリックコメントを実施し、22件の意見があった。

今回の答申は、市内の幼児教育、保育施設の事情あるいは課題など、市の将来を見据えて策定した。

説明会において反対意見が多い中、立ち止まって検証されるのか。また、諸問題の解決において、指導保育士や専門的な知識を持った者を設置し、解決する考えは。

健康福祉部長 方針の内容について、理解してもらい、意見を聞き、一つ一つ答えるのは難しい。負担が生じるとすれば、負担をいかに軽減するか考える。指導保育士については、児童福祉課の中

に園長経験者もおり、保育業務の指導・助言から研修計画・指導まで、相談役として十分機能している。

将来に禍根を残す 道路計画

道路新設改良工事について、予算は可決されたので問題はないとする議員もいるが、本来あるべき姿で進めるべきだ。要望書の通学路と交通量に問題はなにか。

産業建設部長 本部田道路改良事業で、再度8月21日付けで要望書の提出があった。「利用する通過車両が多く、道路幅が狭く大変危険な状況であり一部学童も通る道路」となっている。現状では、児童は通るが通学路の指定はない。交通量は朝夕の時間帯に通過車両がある。

県の補助金を利用して事業を進めるといって、

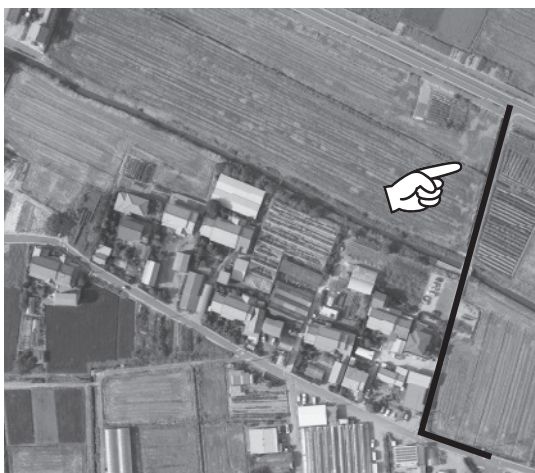
県は認定をしたのか。

産業建設部長 平成31年度に認められるかは分からないが、実施できる予定となっている。

道路改良事業は、実施計画の中に場所、金額が記載をされ行はずだが記載されていない。道路計画は基本的に立てて行くという話だが、今後の動きは。

副市長 道路整備事業は、幹線道路や危険箇所

のある道路を中心に計画的に進めていきたい。そして実施計画書については、3年計画のローリング方式で実施計画書に必ず記載することとし、期限、財源、プロセス、区間等を明らかにして進めたい。一方で、地域要望は行政にとって大切だが、すべてを受け入れることは困難だ。現地を確認し、優先順位をつけ事業を推進していきたい。



▲改良される本部田町地内道路(太線部分)